ロッキー通信 No. 16

「プライオン　思いを力に！」

学校教育目標：「豊かに育つ生徒」
～「挑戦」と「創造」～
校　　訓：「求学・親和・創造」　　R7.9.2(火)発行　文責　校長　六山　和弘

2学期が始動!
今年は「本気の学び」で自己変革に挑戦にしよう！

　私は、1学期の終業式で、この夏休みが、みなさん一人一人にとって、より充実したものになるように、「計画力」と「継続力」の大切さについて話をしました。果たして、みなさんの取組状況はどうだったでしょうか。
夏休みの課題提出や明日から始まる実力テストの中で、みなさんの夏休みの取組の成果が存分に発揮されることを期待しています。
　さて、本日からいよいよ2学期が始まります。
まだまだ暑苦しい日々が続くと思いますが、みなさん一人一人の、そしてクラスの、それからチーム西大村中としての、実りの秋に向けた生活がスタートします。
　この2学期は、中総体駅伝競走大会、合唱コンクール、市内音楽祭などの大きな行事が待っています。それから、3年生にとっては、自分の人生を決める進路決定までの時期が、いよいよ3ヶ月を切りました。1･2年生にとっても、生徒会活動や部活動の主導権を3年生から引き継ぎ、主役として動かしていく重要な時期を迎えていくことになります。
　さらには、みなさんが「期待される人」となるように、それぞれの学年において日々、学習内容も深まっていきます。そして、高校進学に向けてより豊かで、確かな学力を身につけていきながら、様々な活動を通して仲間との絆を深め、自分自身を一回りも、二回りも成長させる機会がたくさん準備されています。ぜひ、みなさん一人一人の夏休みの成果と成長を、この第2学期の更なる飛躍に生かせるよう、一つ一つの学習や学校行事にしっかりと取り組んでほしいと強く願っているところです。

　そこで、私は、この第2学期を「本気の学び」と銘打ち、自己変革を目指す学期にしてほしいと思います。誰にも、苦手や弱みがあります。それを学びの力によって、少しでも「やってみた」を重ねることで「できた」を実感する学期にしてほしいと思います。みなさんは、伸びしろと可能性の塊です。どうか、何かを見つけられるように、自ら考え、動いてみてください。
　最後に、「人はなぜ学ぶのか」という問いに、AIが解答した7つの言葉を紹介します。

（1）生存と適応
　人は、環境や社会に適応するために学びます。学ぶことで、状況への適応能力を高め、生き残る可能性を高めます。
（2）知識の拡充
　学びは知識を増やし、視野を広げ、理解力を向上させます。
（3）好奇心
　知らないことや新しいことに出会うと好奇心が刺激され、さらに多くを学びたくなります。学ぶことは知的スリルを伴い、喜びをもたらします。
（4）行動の変化
　学びは行動を変えることにつながります。学んだら、それに基づいて行動を変える必要があります。
（5）他者とのつながり
　学びは、他人よりも良い成績を取るためだけでなく、知識を通じて他の人とつながるためでもあります。
（6）目標の発見
　学びを通して、新たな目標を発見し、次のステップに進むことができます。
（7）他者のため
　自分のためだけでなく、他者のために学ぶという視点を持つことで、学びを深めることができます。

　学ぶことは、人間にとって重要な活動であり、生涯にわたって続けることで、より豊かで充実した人生を送ることができます。
　結びに、しばらくはまだ暑苦しい日々が続くとは思いますが、季節は確実に移り変わり、やがては「実りの秋」を迎えます。それは、私たち人間にとっても、大きな実りを生み出すのに最も適した季節です。
　西大村中学校の伝統ある校訓「求学」「親和」「創造」と、一人一人の目標を胸に、何事にも挑戦していくことで、新たなる飛躍をこの2学期にしっかりと勝ち取っていってください。
　頑張る皆さんを、先生方とともに、ずっと本気で応援していきたいと思います。
一緒に頑張っていきましょう。

令和7年9月1日　始業式の言葉より一部抜粋　学校長

2学期に向けて

3年2組　山口　翔大

　みなさんはこの夏休み、どのように過ごしましたか。「部活動でよい成績を残す」、「夏休み明けのテストでよい点数をとるために勉強に励む」、「友達や家族とたくさん思い出をつくる」など、それぞれが楽しみ、成長できた44日間にすることができたでしょうか。

　僕は、この夏休み期間中に大村市の事業に参加してイタリアに行くことができました。「Grazie」これはイタリア語で「ありがとう」という意味です。そして「ミーレ」日本語で「千回の」という意味を付け足すことで感謝を強調する言い方になります。感謝の気持ちを表現することは、日本でも大切な文化の一つです。そしてこのことは、日本だけでなく世界共通のものだと知りました。「グラッジェミーレ」ありがとうございます。子の感謝の気持ちは、どこに行っても大切にしていきたいと思いました。また、イタリア派遣最終日では、4つのグループに分かれて「フォトログイニング」を行いました。「フォトログイニング」とは、指定された場所で写真を撮り、時間内により多くの写真を持ち帰ったグループが勝ちというゲームです。最短距離のルートを探し、勝つためにどうすればよいかを話し合い、協力したことで僕たちのグループは優勝することができました。イタリアでの8日間の経験、特に「フォトログイニング」での出来事により、2つのことを学びました。1つは、初めて会った人と信頼できる人間関係をつくることの難しさです。2つめは、協力して物事を達成することの嬉しさです。イタリアという文化も違う遠い地で、初対面の人たちと過ごしたことにより、この2つのことを強く感じることができました。このような素晴らしい経験で学んだことを2学期の学校生活で存分に役立てていこうと思います。

　2学期は、僕たち3年生にとって中学校最後の合唱コンクールがあります。イタリアで学んだ「協力」ということを自分の中で大切にもち、最優秀賞をとれるようにクラスに貢献したいと思います。そして、今の3年生は部活動で一段落ついたということもあり、元気過ぎるがゆえに落ち着きがないのが現状です。これから総合発表会や3学期には受験も控えています。そのため、学年で一致団結して、メリハリがあり学業や行事に集中して取り組める環境づくりをしていきたいです。2学期には、1・2年生の生徒会役員選挙も行われます。生徒会役員選挙は、新しいリーダーが生まれる大切な行事です。今年のスローガン「輝挑～New　Stage～」には積極的に挑戦するという意味があります。選挙への出馬を悩んでいる人、出馬を考えていない人も、ぜひ積極的に挑戦してほしいと思います。みなさんにとって、きっと大切な経験、そして財産になると思います。さまざまな行事が行われるこの2学期、一人の人間、学級、学年、学校として成長できる2学期にしていきましょう。

　今年度は、「自らの学び」を意識してほしいとスタートしました。
　そして、この２学期は「本気の学び」により自己変革に挑戦だ。
「本気」の取組とは何か。下記を参考にしてほしい。これは、二十年近く前に大村市のある中学校で起こったエピソードである。ぜひ、みなさんの参考にしてほしい。
　みなさんにもきっとできるはずだと思っています。決して「人任せ」ではなく、自分の道を自分の力で切り拓いていけ！！応援しています。この２学期もよろしくお願いします。　６山

「もう一度やらせてください！」
鮮やかに脳裏に蘇る今年の体育祭。
最終種目が終わり、閉会式を待つ本部席の前に、3年生全員が整列し、
校長先生に深々と頭を下げた。
校長先生が何と答えられたかは聞こえなかったが、生徒たちが歓喜し
ソーラン節の準備にとりかかったことで内容はつかめた。
雨天を縫ってのプログラム進行、かろうじて行えたソーラン節。
気合いが入っていた。声も出ていた。生き生きとしていた。
しかし、最後の見せ場の4段の塔が揺れた。立てなかった。
彼らは、それが悔しかったのだ。
特別に許可されたソーラン節。唄に合わせた踊りが進み、男子十数人が中央に集まる。
「立て！」
会場の祈るような視線が一点に集まる。
その時、塔は、体育大会の演目を超え、私たちの「希望」となった。
渾身の力と心が込められた四段の塔は、ゆっくりと立ち上がり見事な大団円を決めた。
目頭を押さえる保護者、そして教師。
塔を支えたものはなにか。
彼らは失敗した過去を放置することをよしとはしなかった。
今できることを考え、実行し、未来を変えた。
「未来は自分で創る」
この実感・覚悟こそ、塔を、そして彼らの魂を支えた力だ。
教師集団は、見事にこれを育んでいた。
条件の悪さ、時間の制約、自らの失敗、これらを打ち砕き、
「もう一度お願いします」
と申し出た、この力こそ「生きる力」である。